

障害者も健常者とともに

# 支え合う社会考える

中京でリハビリ  
交流セミナー

「京都市地域リハビリテーション交流セミナー」が5日、京都市中京区の身体障害者リハビリテーションセンターで開かれ、障害のある人もない人も支え合う社会のあり方について考えた。

市と地域リハビリテーション協議会が開いた。会場には約200人が集まった。

セミナーでは、部活動の練習中に頸椎を骨折し、四肢と体幹が不自由になった立命館大学院1年の中村周平さん（24）⇨右京区⇨と、筋萎縮性の遠位型



わずかに動く手を補装具で支え、パソコンを操作し日常生活を語る中村周平さん（京都市中京区・身体障害者リハビリテーションセンター）

ミオパチーを患う中岡亜希さん（33）⇨宇治市⇨が講演した。中村さんは補装具を使ってパソコンを操作し、動画で介助を受

けながらの日常生活やリハビリの様子を紹介。「障害を負うまで何気なかった段差やバスの到着時間などがバリアになった」と話

した。その上で「障害はいっ誰が負うか分からない」と訴えた。中岡さんは、転倒を繰り返すなど症状が出始めたころ、他人に手を貸りることを恥ずかしく思ったと振り返り、「少しの手助けで、できることも増える」と助け合う大切さを述べた。また「希少難病では、病気に関

する情報も少ない。患者が孤立しないで済むようにしないといけない」と訴えた。

（山田修裕）